

駒ヶ根生涯活躍のまち 実施計画における数値目標へのアプローチ状況

設定目標		設定の考え方	計測手法	R3年度末実績	R4当初の計画見込	評価	R4年度末実績	R5当初の計画見込
<b>I 交流・居場所づくりに関する目標</b>								
1 整備した拠点の稼働性 (多様な利用/多世代・多国籍・多様な市民団体/イベント含む)	拠点利用者数 30,000人/年	・まちなかへの新たな流入者数の成果を測ります。 ・整備した施設(ばとな含む)の利用者数やイベント参加者数。	市・JOCA把握 毎年(R4～)	<b>累計25,620名</b> 内訳:ゴッチャ14,027名(R3.9月開所) ばとな9,393人程度 イベント (みなこい、JC、テイクアウト、緑日) トータル約2,200人	◎ 達成が見込まれる コロナの制限等により「ばとな」の本格稼働やイベントの開催ができていないが、ゴッチャ通年営業により目標値はほぼ達成見込み。	◎	<b>(3月末時点) 累計38,631名 (+13,011名)</b> 内訳:ゴッチャ23,488人 ばとな11,443人(ばとな祭り含む) イベント(みなこい、テイクアウト、緑日、ゴッチャ1周年祭) トータル3,700人程度	
2 まちなか遊休資産の活用数 (空き家、空き店舗など)	新規利用20件 (構想期間内累計)	・中心市街地の再生、賑わいの創出の直接的な効果を測ります。 ・市事業(商工観光課)の調査データより該当数を抽出。	市把握 毎年	<b>7件</b> 内訳:ゴッチャ、きよし、いろどり、慎香、Sato Labo、かつば厨亭、遊河童	△ 昨年度並み 幾つか新規オープン等の話が出ている。それぞれ連携できるようにネットワークを広げていく。	○	<b>累計14件 (+8件) (3月末時点)</b> 内訳: xWINまみーずかふえ、res_t_art、TAZAWA、Camp Strawberry、FIRST MOUNTAIN、STAND BAKE SHOP、焼肉門、炭琴aGuri	
3 連携・交流した団体数	10団体以上/年	・取り組み1-(4)、地域団体との連携・交流の成果を測ります。	市・JOCA把握 毎年	<b>約30団体・企業・個人(自営)</b> (内訳)こまがねテラス、あついでこまがね、看護大学、JC、商工会、銀座商店会、広小路商店街振興組合、日の出町商店組合、JICA、ばとな、まほろばの里、みなこい実行委員会、こまがねgift実行委員会、南信州ビール(株)、Sato Labo、音の葉、美酒フェスタ実行委員会、地球人ネットワーク、ゴッチャ外部プログラム講師(12組)など	◎ 達成が見込まれる これまでの連携に加え、さらに団体同士のコラボレーションが生まれるように働きかけていく。	◎	<b>約30団体・企業・個人(自営)</b> (内訳)こまがねテラス、あついでこまがね、看護大学、商工会、銀座商店会、広小路商店街振興組合、日の出町商店組合、JICA、ばとな、みなこい実行委員会、こまがねgift実行委員会、音の葉、美酒フェスタ実行委員会、こまぜみ協力店舗(約15店舗)、ワーケーション/教育旅行受入協力(約5団体)、ゴッチャ外部プログラム講師(12組)など	
4 まちなか実践ワークショップの実施	2回以上/期間内	・取り組み1-(5)市民ニーズを知る成果を測ります。	市・JOCA把握 期間内	<b>リビングLabsの実施(WS・準備・当日運営等10回)</b> (若者視点で若者をまちなかに呼び込むプログラム)	× 計画なし リビングLabsの補助金採択が見送られたため、計画見直しの必要あり。	△	本年度実施なし。 (若者視点で若者をまちなかに呼び込むプログラム)	
5 多様な機能として整備した施設数 (取り組み1-2で位置付けた施設)	各1件/期間内	・多様な機能の整備に関する直接的な効果を測ります。	市把握 期間内	<b>2件</b> ゴッチャウェルネス(R3.9開所) シェアハウス(R4.2開所)	△ 今年度着工予定なし 次年度以降に向けて計画中。	×	本年度実績なし	
<b>II 学びと交流の場づくりに関する目標</b>								
6 ワークショップの参加人数	市外からのワークスペース利用人数 延120人/年	・取り組み1-(2)企業研修誘致などの成果を測ります。 ・プログラムに参加しまちなかのワークスペースを利用した人数。	市、JOCA、ワークスペース提供施設で把握 毎年	<b>40人(Green Shift 12/1-3) + α</b>	△ 数値達成は厳しい 企業研修が本格的に稼働していないため、モデル事業等を実施しながら次年度以降の拡大を目指す。	△	<b>合計16件、106人(+66人)</b> IBM、JICA、パトナ農園隊、その他個人利用	
7 駒ヶ根のファンづくりの取り組みにおける参加者数	500人以上/年	・取り組み1-(1)、(3)、(4)の成果を測ります。	市、JOCA把握 毎年(R4～)	<b>累計208人</b> 駒ヶ根フォーラム(131人) こまぜみ全5回9店舗(70人) JICA海外協力隊特別訓練(計7名)	○ 達成見込み ふるさとの家の主催事業をはじめ、市民向けのプログラムを増やし、数値達成を目指す。	△	<b>合計372人</b> 駒ヶ根フォーラム(160人) こまぜみ全6回6店舗(51人) こまぜみジュニア全5回7店舗(34人) シン・コマガネプロジェクト(127人)	
8 市外からの教育旅行誘致数 (市内でプログラムを実施)	5校/年	・取り組み1-(2)の成果を測ります。市内での人材育成プログラムなどへ参加校数。	市、JOCA把握 毎年	<b>市内でのプログラム実施は3校147名</b> <b>兩砺市立城端中学校 北越高等学校 長野県立看護大学</b> ※このほかコロナ対応でオンライン2校、市外実施1校	○ 達成見込み シン・コマガネプロジェクトとも連携し、合宿等誘致を推進。 ■相模女子大学 ■流通経済大学 ■KTK ■帝京可児高校 ■東京女子学園 ■高崎健康福祉大学	◎	<b>18件395名(+11件、+217名)</b> 小学校1件、中学生6件、大学・大学院3件、一般8件	
9 若い世代向け事業の実施数	各事業1回/年	・取り組み2-(1)、(2)、(3)の成果を測ります。	市、JOCA把握 毎年	<b>1件。リビングLabsを実施。</b> 高校・大学生対象プログラム	○ 達成見込み 商工まつりに合わせた小学生向けの職業体験型ゼミを企画。	○	<b>合計2件、50名</b> SDG s クラブ、komaganeインターン、こまぜみJr.	
10 既存団体と連携した数	延20団体以上/期間内	・既存の活動団体と連携した取り組みから事業継続などの効果を測ります。	市、JOCA把握 期間内	1-3に同じ。			1-3に同じ。	
<b>III 生涯活躍のまちが目指す健康づくりに関する目標</b>								
11 こまがね健康ステーション事業の参加人数 (活動量計購入者数)	600人(期間中) 2019年度から毎年 100人増加	・市民の健康増進の機会拡大の成果を測ります。 ・市事業(地域保健課)の登録データを活用します。	市把握 毎年・期間内	<b>127名の新規購入者</b>	○ 達成見込み ゴッチャウェルネスを活用し、利用促進をはかる	△	<b>累計472名(+146名)、登録継続者1128名(3月末時点)</b>	
12 ウォーキングの促進 (市内各イベント連携含む)	イベント数10回/年	・取り組み1-(2)の成果を測ります。	JOCA把握 毎年	<b>9回実施(157名の参加)</b> ※コロナの影響で3回中止	○ 達成見込み ゴッチャウェルネス事業として実施	△	<b>合計9回実施、125名の参加(昨年比較、-32名)(3月末時点)</b> ※天候・コロナの影響で4回中止	
13 地域の団体や企業連携数	10カ所/期間内	・取り組み2-(1)の成果を測ります。	JOCAで把握 期間内	<b>For Business実績2企業</b> その他4企業と次年度実施に向け調整中	○ 達成見込み 企業へのアプローチを続けている。	○	<b>累計4企業(For Business)</b> その他2企業と次年度実施に向け調整中	
14 飲食店との連携数	10店舗/期間内	・取り組み2-(2)の成果を測ります。	JOCAで把握 期間内	飲食店のみならず市内企業・事業主と <b>連携8店舗</b> (光祥院、看護大、昭和伊南、田中薬局、グリーンオックス、山二園、福屋商店、きよし)	△ 達成に向けて努力が必要 健康という切り口に限った連携としては限定的。実施手法を要検討。	○	飲食店のみならず市内企業・事業主と <b>連携12店舗</b> (サリカ、Sink、xWINまみーずかふえ、水車、大衆食堂きよし、協力隊珈琲、Arch、cross life、bien bien、かつば厨亭、ボカラキッチン、IL PUNTO)	
15 えがおポイント運動による活動量計普及促進	新たな仕組み構築/期間内	・活動量計の普及促進のため、えがおポイント活用や地域連携の仕組みを構築する。	JOCAで把握 期間内	えがおポイント推進協議会に参加。今後、看護大まちづくりサークル等とも協議を重ねて仕組みを構築予定。	△ 企業連携を検討 地域イベントでえがおポイントを活用する案を検討。	△	えがおポイント推進協議会に参加。今後、看護大まちづくりサークル等とも協議を重ねて仕組みを構築予定。	
<b>IV その他構想の目標</b>								
16 移住者数 (2019年度から集計、信州駒ヶ根暮らし推進協関係及び若者住宅補助利用移住者数の合計)	500人	・市内への移住者増の成果を測ります。	市、信州駒ヶ根暮らし推進協把握 期間内	<b>91名</b> -信州駒ヶ根暮らし推進協議会支援実績cf) R2年度実績64名	△ 目標値に対しやや低位で推移 大都市圏等に向けたアピールについて要検討。	△	<b>(3月末時点) 39名(累計194名)</b> -信州駒ヶ根暮らし推進協議会支援実績cf) R2年度実績64名、R3年度実績91名、R4年度実績39名	